子、一條次郎忠頼、同三郎兼信、兄弟二人ト名乗テ進ミ出ツヽ、木曾ト一條ト魚鱗鶴翼ノ戰ヲゾ並タル、

〔太平記十〕長崎次郎高重最後合戰事

高重、今ハトテモ敵ニ被見知ヌル上ハト思ケレバ、馬ヲ懸居、大音揚テ名乗ケルハ、桓武第五ノ皇子、葛原親王ニ三代ノ孫、平將軍貞盛ヨリ十三代、前相模守高時ノ管領ニ長崎入道圓喜ガ嫡孫、次郎高重、武恩ヲ報ゼンタメ討死スルゾ、高名セント思ハン者ハ、ヨレヤ組ント云儘ニ、〇略下

〔大塔物語〕長國、究早態之兵成、件金筒丸、柄中押取捧中、凸所由良々々頡凹所飛良々々頑、不嫌堀谷踊越、嚏越、擧大音名乗梟者、遠聞音近見目忝清和天皇御苗裔、新羅三郎末孫、小笠原次郎長清、其子兵庫頭政長、次男坂西次郎長國、生年廿一歳也、而内心入鷲窟營螢雪之勤、外嗜弓馬之道、不遑帷幄之籌、文武二道之珍重男、倚會哉々々、〇略下

〔館林盛衰記〕長尾但馬守館林ヘ寄事

五十有餘の武者、〇略中高聲に被申けるは、戰場にのぞむ人毎に、討死を不志といふものなし、然ども今日の合戰に、我一人死せんずる也、子細は兼て覺えつらん、是は清和天皇の後胤、足利氏の末流栗屋十郎が末孫に、小曾根玄蕃允正好なり、諸野因幡守〇秀氏はおはせぬか、出合給、大刀打し、敵味方のねぶりを覺させ申べしと、勢ひあたりをはらつて扣給ふ、

〔別所長治記〕神吉ノ城攻

六尺餘ノ男、昔甲猪頭ニキ、黑皮威ノ腹卷ニ、三尺餘ノ大長刀ヲ提、高聲ニ名乗ケルハ、鎌倉權五郎景政ガ末葉、梶原十右衞門入道冬〇冬一本作道庵ト云者也、〇略中東國武者ハ、今日始テノ見參也、寄手手ナミヲ見ヨトテ、橋ノ行桁ヲ走リ渡ル、

〔古史徵一夏〕上世より世人事とある時は、祖の名を顯はし、また其功しかりし事蹟をも稱て名